

1996年 わだつみ会 8・15集会アピール

戦後51年 アジア沖縄からの告発

わだつみ会 8・15集会

戦後51年目を迎え、日本の侵略戦争の犠牲となったアジア太平洋地域の一人一人に心からの謝罪と補償をしないまま、橋本首相は日本軍国主義の精神そのものである「靖国神社」に「内閣総理大臣」として公式参拝を強行しました。

また、コロン高原派兵までエスカレートした自衛隊のPKO活動は、戦後日本が放棄したはずの軍事力による紛争解決を既成事実化しています。

さらに沖縄において、政府は米軍基地のための私有地強制使用の代理署名を拒否した大田知事を告訴する暴挙に出ています。そして、日米安保体制を一層強化し、憲法を無視して集団的自衛権の行使をもくろみ、軍事大国への道を進んでいます。

51年前、沖縄戦では天皇の「大戦果を挙げる」という目的で、多くの若者たちが無残な「特攻」死を強いられました。また、沖縄県民の4人に1人の尊い命が奪われました。この未曾有の惨禍は天皇自らの意思で遂行した戦争によるもので、天皇制の維持、延命を図ることを自己目的化した「国体の護持」に固執した結果でした。

天皇は敗戦後、1947年にソ連の脅威に備え国内治安を維持するために、米国が沖縄の軍事占領を継続するように希望する」と、当時の在東京米国政治顧問のシーボルト宛に要請する書簡を送っています。天皇の戦争責任は言いつまでもなく、その戦後責任もわたしたちは厳しく問わなければなりません。

現在、アジアの民衆からの様々な告発、沖縄の人々の苦悩と怒りの叫びに、わたしたち一人一人が痛みを感じつつ、行動すべきではないでしょうか。

軍事大国日本への無責任な道ではなく、アジア太平洋地域における日本の戦争責任と戦後責任を具体的に、かつ徹底的に追及する道を、そしてさらには、決して二度と再び戦わない不戦・反戦の、平和への道を、わたしたちが共に連帯し力を合わせて歩み続けてゆくことを、ここに強く訴えます。

1996年 8月 15日

わだつみ会 8・15集会